

魚市場におけるエツの取扱状況

林 宗徳
(有明海研究所)

The Landing Detail of Engraulid Fish, *Coilia nasus*, in the Fish Market

Munenori HAYASHI
(Ariake Sea Laboratory)

エツ *Coilia nasus* は有明海と筑後川を代表とする有明海に流入する河川の河口域に生息するカタクチイワシ科の魚¹⁾で、産卵のため筑後川に遡上する5月から7月にかけては漁獲対象となる。筑後川沿岸の福岡県大川市、城島町、佐賀県諸富町などでは好んで食され、観光エツ漁など初夏の風物詩となっている。

従来エツを漁獲する漁法は筑後川下流域における「エツ流刺網」であり、毎年5月1日から操業が許可される。漁獲されたエツは、地元の魚市場出荷、料亭との直接取引、自家消費される。近年、有明海海域でエツ流刺網以外の漁法（固定式さし網等）によって漁獲されることが明らかになり²⁾、流通されるエツは筑後川産だけでなく有明海産のものも含まれている。本報告では流通実態を明らかにする目的で、魚市場におけるエツの取扱量と、出荷されたエツの漁獲場所（海・川）、漁法等の内訳を推定したので報告する。

材料及び方法

1. 市場間取調査

筑後中部魚市場において1998年、'99年の5月から7月にかけて10日に1回の割合で市場にエツを出荷する漁業者に漁法、漁獲場所（海・川）、箱数、漁業者の所属漁協（県）を聞き取り、調査日毎に集計し、旬ごとの漁法別比率、漁場比率、属県比率を求めた。また、'99年はセリ時の価格も併せて聞き取り、有明海産エツと筑後川産エツの単価を推定した。

2. 市場取扱量調査

'98年、'99年の3月から8月の1日ごとの取扱箱数を魚市場の日報から調査し、旬ごとに集計した。

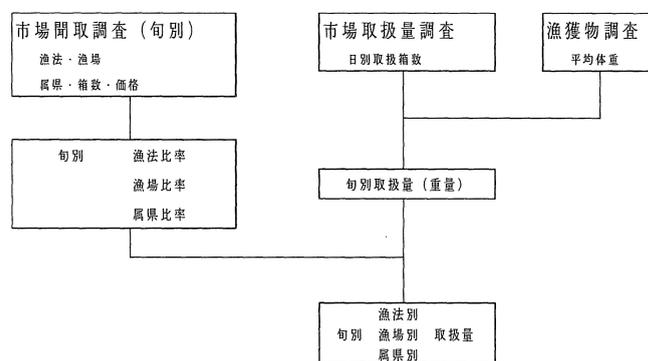


図1 市場取扱量内訳推定法

3. 漁獲物調査

'98, '99年の5月から7月にかけて月2回の割合でエツ流刺網、固定式さし網で漁獲されたエツ50~100尾の体重を測定し、漁獲物の平均体重を求めた。

市場取扱内訳は図1に示したように、市場取扱量調査から求めた旬別箱数と漁獲物調査で求めた平均重量から旬別取扱重量を推定し、市場間取調査で求めた旬別の漁法、漁場、属県の比率から旬別の漁法別、漁場別、属県別取扱重量を推定した。

結 果

1. 市場間取調査

市場間取調査の結果を表1、2に示した。漁獲される場所は筑後川または有明海、漁法は筑後川のもが福岡・佐賀両県の漁業者によるエツ流刺網、有明海のもが福岡県の漁業者による固定式さし網、佐賀県の漁業者によるコノシロ網、佐賀県の漁業者によるあんこう網であっ

表1 市場取扱調査の結果

調査年月日	筑後川		有明海				不明+	調査箱数 (A)	調査当日の市場箱数 (B)	把握率 A/B (%)
	エツ流刺網		固定式さし網		コノシロ網	あんこう網				
	佐賀 (箱)	福岡 (箱)	佐賀 (箱)	福岡 (箱)	佐賀 (箱)	佐賀 (箱)	その他 (箱)			
1998/5/7	25	28	3	37	0	0	3	96	172	56
5/14	12	1	0	51	0	0	18	82	139	59
5/27	71	83	0	28	0	2	8	192	254	75
6/5	3	7	7	95	0	0	35	147	199	74
6/16	39	48	0	115	0	3	33	237	266	89
6/24	62	40	0	60	0	0	25	187	238	79
7/8	31	119	0	52	0	10	20	232	286	81
98年合計	243	326	10	437	0	15	142	1,172	1,554	75
1999/5/6	0	16	0	27	150	0	18	210	222	95
5/20	0	53	0	2	14	0	0	69	80	86
5/28	10	22	0	52	0	0	13	97	133	73
6/7	19	16	3	59	0	0	14	110	130	85
6/16	80	188	0	2	0	6	18	294	311	94
7/1	143	126	0	63	0	0	50	382	463	83
7/10	157	56	0	9	0	0	15	237	456	52
99年合計	409	477	3	213	164	6	127	1,398	1,795	78

表2 漁場別・漁法別・属県別比率

調査年月日	筑後川		有明海				不明+
	エツ流刺網		固定式さし網		コノシロ網	あんこう網	
	佐賀	福岡	佐賀	福岡	佐賀	佐賀	その他
1998/5/7	26.2	29.3	3.1	38.2	0.0	0.0	3.1
5/14	14.6	1.2	0.0	62.2	0.0	0.0	22.0
5/27	37.1	43.3	0.0	14.4	0.0	1.0	4.2
6/5	2.0	4.8	4.8	64.6	0.0	0.0	23.8
6/16	16.5	20.0	0.0	48.3	0.0	1.3	13.9
6/24	33.2	21.4	0.0	32.1	0.0	0.0	13.4
7/8	13.4	51.3	0.0	22.4	0.0	4.3	8.6
1999/5/6	0.0	7.4	0.0	12.9	71.4	0.0	8.3
5/20	0.0	76.8	0.0	2.9	20.3	0.0	0.0
5/28	10.4	22.8	0.0	53.4	0.0	0.0	13.5
6/7	17.3	14.5	2.7	53.2	0.0	0.0	12.3
6/16	27.3	64.1	0.0	0.5	0.0	2.0	6.1
7/1	37.4	33.0	0.0	16.5	0.0	0.0	13.1
7/10	66.2	23.6	0.0	3.8	0.0	0.0	6.3

表3 筑後中部魚市場における取扱箱数

旬	1998年	1999年
3月上旬	0	1
中旬	135	58
下旬	142	50
4月上旬	238	370
中旬	706	466
下旬	574	594
5月上旬	1,295	1,081
中旬	1,209	1,777
下旬	2,657	1,243
6月上旬	2,039	1,786
中旬	2,617	1,518
下旬	3,945	1,555
7月上旬	2,304	2,468
中旬	552	1,026
下旬	34	230
8月上旬	20	57
中旬	6	53
下旬	5	20
合計	18,478	14,353

(単位: %)

た。漁業者からの聞き取りによると、エツを目的とした漁法はエツ流刺網と固定式さし網であり、コノシロ網、あんこう網はエツが主目的ではなく、混獲されたものがまとめれば出荷するという形態であった。また、市場の出荷時には1箱につき28~30尾のエツが入っていた。

2. 市場取扱量調査

市場における旬別の取扱箱数を表3に示した。取扱箱数は筑後川におけるエツ流刺網操業前の4月から増加し、7月下旬以降激減する。'98年は6月下旬がもっとも多く、'99年は7月上旬がもっとも多かった。

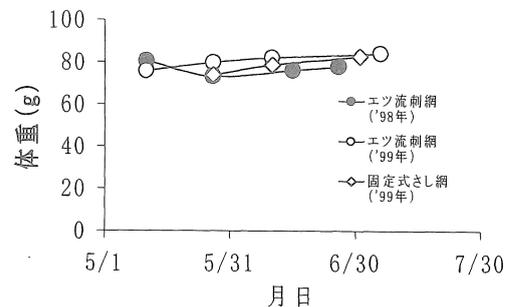


図2 エツ漁獲物の平均体重の推移

3. 漁獲物調査

図2に漁獲されたエツの平均体重の推移を漁法別に示

した。エツ流刺網，固定式さし網とも，調査期間中大きな変化はなく，ほぼ80g前後で推移した。

考 察

市場間取調査および，漁獲物調査の結果から市場に出荷されるエツの平均体重を80g，1箱を30尾とすると，

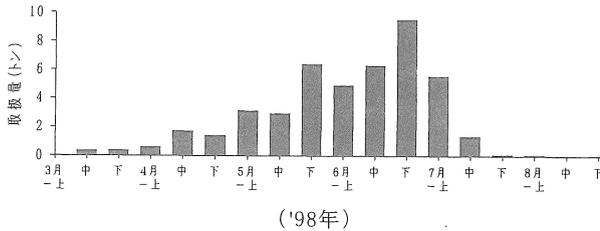


図3 筑後中部魚市場における旬別取扱重量の推移

1箱あたりのエツ重量は2.4kgとなる。この値を市場取扱量調査の旬別箱数にかけ，旬別の取扱重量を推定したのが，図3，図4である。'98年は合計44トン，'99年は合計34トンの取扱量であった。さらに市場間取調査から求めた旬別の漁場別・漁法別・属県別の比率を旬別取扱にかけ，それぞれの取扱量を推定したのが，表4，表

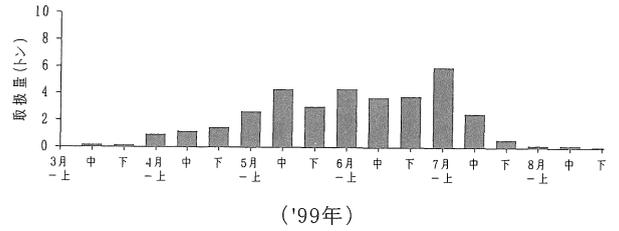


図4 筑後中部魚市場における旬別取扱重量の推移

表4 漁法別・属県別・漁場別漁獲量の推定結果（1998年）

旬	市場取扱量	漁法別（5～7月）								県別（5～7月）		漁場別（4～7月）	
		エツ流刺網	佐賀	福岡	固定式さし	佐賀	福岡	コノシロ網	あんこう網	福岡	佐賀	筑後川	有明海
4月上旬	0.6											0.0	0.6
4月中旬	1.7											0.0	1.7
4月下旬	1.4											0.0	1.4
5月上旬	3.1	1.7	0.8	0.9	1.3	0.1	1.2	0.0	0.0	2.1	0.9	1.7	1.4
5月中旬	2.9	0.5	0.4	0.0	1.8	0.0	1.8	0.0	0.0	1.8	0.4	0.5	2.4
5月下旬	6.4	5.1	2.4	2.8	0.9	0.0	0.9	0.0	0.1	3.7	2.4	5.1	1.0
6月上旬	4.9	0.3	0.1	0.2	3.4	0.2	3.2	0.0	0.0	3.4	0.3	0.3	3.8
6月中旬	6.3	2.3	1.0	1.3	3.0	0.0	3.0	0.0	0.1	4.3	1.1	2.5	3.3
6月下旬	9.5	5.2	3.1	2.0	3.0	0.0	3.0	0.0	0.0	5.1	3.1	5.5	3.6
7月上旬	5.5	3.6	0.7	2.8	1.2	0.0	1.2	0.0	0.2	4.1	1.0	3.6	1.4
7月中旬	1.3	0.9	0.2	0.7	0.3	0.0	0.3	0.0	0.1	1.0	0.2	0.9	0.3
7月下旬	0.1							0.0				0.0	0.1
合計	43.6	19.5	8.8	10.7	15.0	0.3	14.7	0.0	0.4	25.4	9.6	20.0	20.9
構成比		48.9			37.6			0.0	1.1	63.6	23.9	45.9	47.9

（単位：構成比は%，それ以外はトン）

表5 漁法別・属県別・漁場別漁獲量の推定結果（1999年）

旬	市場取扱量	漁法別（5～7月）								県別（5～7月）		漁場別（4～7月）	
		エツ流刺網	佐賀	福岡	固定式さし	佐賀	福岡	コノシロ網	あんこう網	福岡	佐賀	筑後川	有明海
4月上旬	0.9											0.0	0.9
4月中旬	1.1											0.0	1.1
4月下旬	1.4											0.0	1.4
5月上旬	2.6	0.2	0.0	0.2	0.3	0.0	0.3	1.9	0.0	0.5	1.9	0.2	2.3
5月中旬	4.3	3.3	0.0	3.3	0.1	0.0	0.1	0.9	0.0	3.4	0.9	3.3	1.0
5月下旬	3.0	1.0	0.3	0.7	1.6	0.0	1.6	0.0	0.0	2.3	0.3	1.1	1.9
6月上旬	4.3	1.4	0.7	0.6	2.4	0.1	2.3	0.0	0.0	2.9	0.9	1.4	2.5
6月中旬	3.6	3.3	1.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	2.4	1.1	3.5	0.2
6月下旬	3.7	2.6	1.4	1.2	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	1.8	1.4	2.9	0.6
7月上旬	5.9	5.3	3.9	1.4	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	1.6	3.9	5.3	0.3
7月中旬	2.5	2.2	1.6	0.6	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.7	1.6	2.2	0.1
7月下旬	0.6											0.0	0.6
合計	33.9	19.3	9.0	10.3	5.4	0.1	5.3	2.7	0.1	15.6	11.9	19.8	12.9
構成比		63.4			17.7			8.9	0.2	51.2	39.1	58.5	37.9

（単位：構成比は%，それ以外はトン）

5である。4月は両年とも市場聞き取り調査を行っていないため、漁法別、属県別は5月から7月の推定を行った。また、漁場別は4月は筑後川における操業がないため、4月の取扱はすべて海での漁獲として4月から7月の取扱量の推定を行った。

漁法別にみると筑後川におけるエツ流刺網は'98年の取扱量は19.5トン（構成比48.9%）、'99年の取扱量は19.3トン（構成比63.4%）であった。また、このうち福岡県漁業者と佐賀県漁業者はほぼ同量が推定された。

有明海における固定式さし網は'98年の取扱量は15.0トン（構成比37.6%）、'99年の取扱量は5.4トン（構成比17.7%）であり、いずれもほぼ全数が福岡県漁業者による漁獲であった。コノシロ網は'98年はなく'99年は2.7トン（構成比8.9%）、あんこう網は'98年が0.4トン（構成

比1.1%）、'99年が0.1トン（構成比0.2%）であり、全数が佐賀県漁業者による漁獲であった。漁法別では、エツ流刺網がもっとも多く、続く固定式さし網とで全体の8割以上を占めていることが明らかになった。

県別では福岡県漁業者出荷の取扱量は、'98年が25.4トン（63.6%）、'99年が15.6トン（51.2%）であり、両年とも佐賀県漁業者の出荷量を上回った。

漁場別では筑後川産は'98年は20.0トン（45.9%）、'99年は19.8トン（58.5%）であった。有明海産は'98年は20.9トン（47.9%）、'99年は12.9トン（37.9%）であった。

漁場別取扱量の推移を図5、図6に示した。両年とも5月から6月中旬までは海と川の比率は変化が大きい、それ以降は徐々に川の比率が高まっていく。これはこの時期にたびたび大雨に伴う出水があり、遡上しているエツが海域へ戻され、出水が収束すると、大量遡上があることから³⁾海と川の比率が変動すると推定される。

'99年の有明海産エツと筑後川産エツの1尾あたりの推定単価の推移を図7に示した。5月上旬から6月上旬にかけては筑後川産エツは250円前後で推移したが、有明海産エツは筑後川産エツの約4割から6割の100円から180円程度であった。6月中旬以降、両者とも単価は下落し100円以下になるとともに、価格差は縮まり有明海産エツは筑後川産エツの8割から9割になった。筑後川産エツは基本的に有明海産より高価に取り引きされていることが明らかになり、流通量の比較的小さい5月にはその差が顕著である傾向が認められた。

筑後中部魚市場におけるエツ取扱量のうち、有明海において漁獲されたエツは4割から5割と、かなり多いことが明らかになった。筑後川におけるエツ流刺網は操業期間が5月1日から7月20日まで、目合い、網長、網丈等の規制もあるが、有明海においてエツを漁獲する固定式さし網、コノシロ網等の漁法については操業期間の制約がなく、またエツを目的とした目合い等の漁具の規制はない。このことから4月から海域での操業が行われることになり、エツ流刺網漁業者からは不満の声が聞かれる。また、一部のエツ流刺網関係漁協が受精卵放流等の増殖策に取り組んでいること、学識経験者、行政、水資源開発公団、エツ流刺網漁業者、試験研究機関でエツ資源増殖研究会を組織し活動していること、エツが環境庁レッドデータブックの危急種に指定される重要な種であることから、現在の資源を維持しながら漁獲を続けていくためには有明海海域でエツを漁獲する漁業者のこれらの活動への参画が必要である。

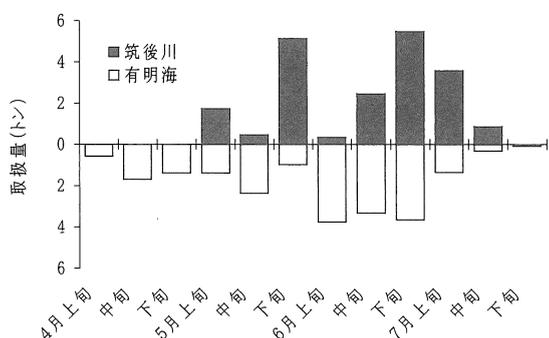


図5 エツの漁場別取扱量の推移('98年)

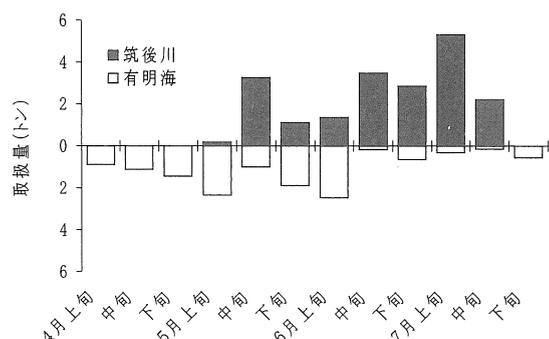


図6 エツの漁場別取扱量の推移('99年)

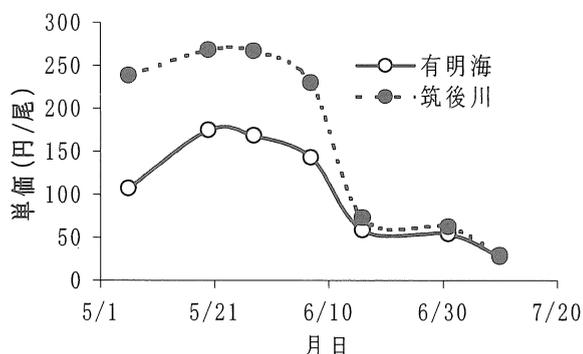


図7 漁場別の単価の推移('99年)

要 約

- 1) エツの魚市場に出荷されるエツの漁場、漁法等を推定するために、市場取扱量調査、市場聞き取り調査、漁獲物調査を行った。
- 2) 市場に出荷されるエツは筑後川においてエツ流刺網で漁獲されるもの（福岡・佐賀県漁業者）、有明海において固定式さし網（福岡県漁業者）、コノシロ網（佐賀県漁業者）、あんこう網（佐賀県漁業者）で漁獲されるものがあり、このうちエツを主目的に漁獲を行うのはエツ流し刺網、固定式さし網であった。
- 3) '98年の取扱量は44トン、'99年の取扱量は34トンと推定された。
- 4) 漁法別ではエツ流し刺網が全体の5～6割、固定式さし網が2～4割を占め、両漁業による出荷が市場取扱量の主体であることが推定された。
- 5) 県別では福岡県漁業者が5～6割を占めていた。
- 6) 漁場別では有明海産と筑後川産の量に大きな差はなく、海産エツの市場に占める位置が大きいことが明らかになった。
- 7) 有明海産エツの単価は、漁期初めの5月から6月は

じめにかけては1尾当たり100円台で、筑後川産エツの200円台に比べると約6割の単価であった。6月中頃から両者とも単価が下がり、50円前後になったが、海産エツの単価は筑後川産エツの単価の8～9割と安価であった。

謝 辞

市場調査の便宜ならびに情報提供をいただいた筑後中部魚市場の三村忠司次長、エツ漁獲物調査に協力いただいた下筑後川漁協 吉村正博氏、川口漁協 龍 一彦氏ならびに市場聞き取り調査に漁協力いただいたエツ漁業者の方々に感謝します。

文 献

- 1) 田北 徹：有明海産エツについて。長大水研報，22,45-56(1967)。
- 2) 林 宗徳：エツ資源増殖技術開発事業。福岡水海技セ事報，平成9年度，258-261(1999)。
- 3) 林 宗徳・秋本恒基：筑後川の河川流量がエツの遡上、産卵に及ぼす影響。福岡水海技セ研報，1,89-93(1993)。